

【校長式辞】

早い春の訪れは桜の花を散らしてしまい、周囲は一気に初夏を迎えたようです。好天に恵まれた今日の良き日に、学校法人清水ヶ丘学園監事 横田正教様、清水ヶ丘高等学校同窓会会長 小早川 政子様はじめ多くの来賓の方々のご臨席を賜り、ここに清水ヶ丘高等学校第68回入学式を挙行できますことは本校教職員にとり誠に喜ばしい限りです。感謝申し上げます。

新入生の皆さん、清水ヶ丘高等学校への入学おめでとうございます。在校生、教職員ともども皆さんの入学を心待ちにしておりました。心より歓迎いたします。

保護者の皆様、お子様のご入学誠にありがとうございます。保護者の皆様のお喜びは如何ばかりかと拝察いたします。改めてお祝い申し上げます。

さて、新入生の皆さん、本校への入学にあたり、皆さんに本校の教育方針について若干の説明をいたします。

手元にありますように本校の校章は赤い三つ葉模様です。この3つの葉は本校が戦争の惨禍をくぐり抜けて残った3つの学校、呉淑徳高等女学校、土肥高等女学校、呉精華高等女学校を表しています。3校は昭和26年、呉市長の斡旋により統合合併して新しく清水ヶ丘高等学校に生まれ変わりました。

また、3つの葉は本校の校訓である「真」「美」「愛」を表現しています。「真」は誠心誠意の「まごころ」であり、人間のみが追求できる「真理」の「真」です。

「美」は、「真」をひたむきに求めて努力していく若い皆さんの明るく健康な姿が持つ「美しさ」を意味しています。聡明な知性と健全な身体に根ざす女性の輝きです。

最後に「愛」は、ひたむきで若さに溢れる美しい皆さんの姿は周囲に溶け込み地域への愛を育てるのです。皆さんが灯した愛の灯は地域から世界へと広がって行きます。

次に高等学校と中学校の違いについてお話します。高校では中学校に比べ自由が拡大します。3年生になり18歳になれば選挙権を持ち、選挙に参加することができます。今また成人年齢の18歳への引き下げも検討されています。

20世紀のフランス人哲学者サルトルは「人間は自由の刑に処せられている」と述べています。現代は価値の基準が多様で複雑であり、誰もが納得する唯一の基準を持つことの難しい時代です。現代社会の中で人は自由に選択を行い生きていきます。自ら選ばなければならないのが現代です。したがって自分で選んだことへの責任は自分自身にあると述べています。

新入生の皆さんも自らの責任において清水ヶ丘高等学校を選び入学してきました。自分で選択した自分の人生に対する責任を果たさなければなりません。

清水ヶ丘高等学校を選んだということは、先ほど述べた真・美・愛を体現した素晴らしい女性に成長することです。成長することによって自分への責任を果たすことができます。

丘に面した坂道にある本校は休山につながる森と水の自然環境に恵まれ、先生方も常に指導力の向上に向け努力を続けています。このような素晴らしい環境の中で勉学に、運動に、様々な学校行事に思う存分、努力し楽しんでください。皆さんが自ら選んだ責任を果たし、歓喜のうちに卒業されることを心から願っています。

最後に保護者の皆様にお願いがございます。教育は学校のみでは完結しません。生徒が多くの時間を過ごすのは家庭や家族と過ごす時間です。家庭と学校が一体となり協力し合っていかなければ生徒の成長は望めません。1人の人格を形成するという偉大な営みに学校、家庭が共に努力していくことが出来れば、これ以上の喜びはないと思います。保護者の皆様にご協力をお願い申し上げます。簡単ではありますが式辞とさせていただきます。

